

第1号議案

令和7年度 事業報告

1. 通常総会

第66回通常総会は、令和7年5月23日（金）アルカディア市ヶ谷において開催した。出席者は委任状とも1,276名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、下村会長を議長とし、議事の審議にあたった。

(1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から中村 光氏および左東有次氏の2名が指名され、令和6年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、令和7年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

鈴木基行殿、椿 龍哉殿、西尾浩志殿、西山峰広殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和6年度（第52回）授賞は、論文賞1件、作品賞7件、施工技術賞3件の計11件である。

○ 論文賞

- 塩害環境下に設置されたPC橋桁の外観・内部損傷調査と外部環境作用の実験

| | |
|---|-----------|
| (第33回プレストレストコンクリートの発展に関する シンポジウム論文集) | 中 村 文 則 殿 |
| | 井 林 康 殿 |
| | 小 川 晴 希 殿 |
| | 下 村 匠 殿 |

○ 作品賞

(土木部門)

- 北陸新幹線、大蔵余座高架橋

| | | |
|-------------------------|------------------|---|
| (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 | 北陸新幹線建設局 | 殿 |
| | パシフィックコンサルタンツ(株) | 殿 |
| 三井住友・極東興和・道端特定建設工事共同企業体 | | 殿 |

- 双海橋 II期線

| | | |
|------------|--------------|---|
| 西日本高速道路(株) | 四国支社 | 殿 |
| | (株)エイト日本技術開発 | 殿 |

鹿島建設(株)・(株)富士ピー・エス特定建設工事共同企業体 殿

(建築部門)

- 川崎市役所本庁舎
川崎市 殿
(株)久米設計 殿
大成建設(株) 横浜支店 殿
ピーエス・コンストラクション(株) 殿
- ニコン 本社/イノベーションセンター
(株)ニコン 殿
(株)三菱地所設計 殿
(株)安藤・間 殿
(株)建研 殿
- 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル
茨木市 殿
(株)伊東豊雄建築設計事務所 殿
(株)佐々木睦朗構造計画研究所 殿
(株)竹中工務店 殿
- 鹿島市民文化ホール SAKURAS
鹿島市 殿
ナスカー級建築士事務所 殿
(同)OAK Plus 殿
松尾建設(株) 殿
中島建設(株) 殿
高木建設(株) 殿
ピーエス・コンストラクション(株) 殿
- 麻布台ヒルズ ガーデンプラザC
森ビル(株) [特定建築者] 殿
(株)日本設計 殿
清水建設(株) 殿
(株)建研 殿

○ 施工技術賞

- 柱頭部の超急速施工法
中日本高速道路(株) 殿
三井住友建設(株)・極東興和(株)・ドーピー建設工業(株)JV 殿
- 東西経済回廊整備計画パッケージ1 ジャイン・コーカレー橋建設事業
安藤ハザマ・ピーエス・コンストラクションJV 殿

- 新東名高速道路 大御神西跨道橋 他3橋 中日本高速道路(株) 東京支社 殿
(PC上部工) 工事 (株)大林組 殿

以上の賞について、工学会賞選考委員会阿波野昌幸委員長より選考結果が報告された。下村会長より、論文賞、作品賞、施工技術賞受賞者に賞状と副賞として記念盾がそれぞれ授与された。

2. 理 事 会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を2回（5月，8月）開催した。議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

3. 会誌等の発行

会誌は隔月に6回計20,100部を発行した。

4. 委 員 会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会を5回（4月，9月，11月，1月，3月）開催した。4月は令和6年度事業報告案ならびに同収支決算案を審議した。9月は次期理事会役員構成について，新公益法人制度による外部理事，外部監事役員の選任を審議した。11月は退任役員候補者の後任の選任を確認，1月は役員候補者，名誉会員候補者の検討を行った。3月は役員人事，名誉会員推挙，令和8年度事業計画案，同収支予算案の審議を行った。

(2) プレストレストコンクリート工学会賞選考委員会

第53回（令和7年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考および賞の新設を検討するため，4回の委員会を開催した。令和8年4月3日（金）開催の第4回目の委員会の討議を経て，作品賞6件（土木部門2件，建築部門4件），技術開発賞1件，施工技術賞1件を受賞候補に選出し，これを4月度理事会に答申した。また，工学会賞選考委員会の委員構成について検討し，継続審議とした。

(3) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第67巻4号，6号，第68巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」，「PC橋特有の変状とその対策」，「高速道路リニューアルの現状と今後の取組み」を企画特集した。

(4) ナショナルレポート編集委員会

2026年6月にリスボン（ポルトガル）で開催される第7回*fib*コンGRESSに向けて，日本を代表するコンクリート構造物を広く海外へ紹介するための「National Report of Japan on Structural Concrete -The 7th International *fib* Congress 2026」をJCIと共同で編

纂するため、ナショナルレポート編集委員会を開催する予定であったが、委員会の開催はなかった。

(5) シンポジウム実行委員会

委員会を6回、総務・広報・学術・現地WGを合計8回開催し、福井県福井市のフェニックス・プラザ（福井市民福祉会館）で開催する第34回シンポジウムの企画と運営を行った。また、令和9年の第36回シンポジウムの開催を静岡県浜松市で行うことを決定した。令和8年1月からは、大分県別府市の別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）で開催する第35回シンポジウムの準備に取りかかった。

(6) PCアーカイブス委員会

委員会を2回、幹事会を5回、収集整理・原稿企画・システム検討の各WGおよび合同WGを合計10回開催した。幹事会では、前年度の活動報告、今年度の活動方針および各WGの活動計画について議論を行い、名誉会員インタビュー企画を始めとする今年度の活動内容を確認し、必要となる体制を構築した。また、新規企画として橋梁と基礎に「PCアーカイブスひもとき帖」と題して、過去に会誌やPC技術講習会で紹介した内容の概要版を連載した。システム検討WGは、システム監修を行い、意見照会の結果を反映してシステムの変更・修正対応を実施した。また、収集したデータの追加やメンテナンスを実施した。収集整理WGは、*fib*の『(仮) 20世紀における各国のPC技術の発展に関する報告書作成活動』の準備のために収集した文献をもとに、「PC構造物の高度成長期とその後の発展」と題して、会誌68巻第3号（5, 6月号）に投稿した。また、橋梁と基礎の「PCアーカイブスひもとき帖」の連載第9回（6月号）に投稿した。原稿企画WGは、今年度のPC技術講習会テキストの執筆依頼、次年度以降のPC技術講習会の講演題目の検討を行った。また、名誉会員のインタビュー結果の概要版を作成し、会誌68巻第2号（3, 4月号）以降4回の短期連載として掲載する予定である。名誉会員インタビュー企画は、23名の名誉会員のインタビューが終了した。

(7) PC技術規準委員会

委員会を2回、幹事会を4回、WGを5回開催し、講習会開催方法の検討、新たな小委員会の立ち上げなどについて検討を行った。また、本工学会が発刊する規準類の体系を整理し、今後策定する規準類の呼称を統一した。所管するPC構造物の3次元解析による部材設計ガイドライン作成小委員会が策定中の手引き案の意見照会を行った。

1) PC構造物の3次元解析による部材設計ガイドライン作成小委員会

委員会を4回、幹事会を1回、WGを3回開催し、PC構造物の3次元FEM解析の手引きの内容に関する討議と原稿作成、小委員会内での意見照会を経て、PC技術規準委員会へ意見照会を依頼した。

2) プレキャストPC床版接合部の性能評価小委員会

委員会を2回，幹事会を3回，WGを14回開催し，プレキャストPC床版接合部の各工法の整理とWG分けを行い，接合構造，設計の基本的な考え方，性能照査，施工上の留意点と管理項目等について検討し，指針策定を進めた。

3) プレキャストセグメント橋継ぎ目部の性能評価小委員会

委員会を3回，幹事会を5回開催し，プレキャストセグメント橋継ぎ目部の設計，施工，保全について国内外の既往資料を収集し，基本的な考え方の変遷を整理した。また，本小委員会の検討内容や今後の展開について討議し，WGを設置して具体的な検討内容を提案することとした。

(8) PC鋼材委員会

委員会を1回開催し，PC技術を用いた構造物の低炭素社会への貢献，防食PC鋼材の適用事例，国内外におけるPC鋼材規格の変遷およびPC構造物のPC鋼材腐食事例について紹介ならびに討議を行った。また，PC鋼材の海外規準に関わる*fib* Commission-5での活動内容が紹介された。

(9) 公募研究委員会

令和7年度は，令和5年度に採用を議決した「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」続編 編集委員会の延長について審議し，承認した。

(10) PC技術講習会委員会

委員会を1回開催した。令和7年6月に開催した第52回PC技術講習会（オンライン形式）の受講者アンケート結果を踏まえて審議を行い，次回第53回PC技術講習会のプログラムを決定した。有識者による特別講演1題とテキスト講演題目6題を設定した。

(11) PC技士委員会

委員会を1回，各小委員会を7回開催した。受験者および再登録者を対象にオンライン（オンデマンド動画配信）によるPC技士講習を実施した。令和7年10月19日（日）に東京，大阪，福岡の3会場において一斉に第33回プレストレストコンクリート技士試験を実施し，12月11日（木）に合否の判定を行った。

(12) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回，各小委員会を7回開催した。受験者，再登録者および更新登録者を対象にeラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。令和7年7月13日（日）に東京，大阪，福岡の3会場において一斉に第18回コンクリート構造診断士試験を実施し，10月1日（水）に合否の判定を行った。

(13) 国際委員会

「PC工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと，ならびに日本のPC技術

を海外へ情報発信すること」を目的に、令和7年度は、委員会を1回開催した。委員会活動は、*fib*の総会に参加し、*fib*の公式会員組織としての投票権を行使するとともに、*fib*の各種委員会（Commissionならびにそれらの下のTask Groupなど）に参加し、調査研究活動に参加した。また、日本コンクリート工学会（JCI）と合同の*fib*コンGRESS2030準備委員会に参加し、委員会を3回、WGを2回開催した。PC工学会英文ホームページの更新、PCシンポジウムの海外からの特別講演の企画および運営、PC技術講習会の国際関係のテキスト執筆および講演を行った。

【公募研究委員会】

(1) 洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施検討委員会

本委員会は、令和5年3月に国土交通省より公表された「コンクリート製浮体式洋上風力発電施設の設計施工ガイドライン」に基づき、実際にコンクリート製浮体を実現するための製造システムや製品供給体制などの技術的課題を検討することを目的として、令和5年度より活動を開始した。令和7年度は、委員会を3回開催し、洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施事例や研究報告を情報共有し、本委員会成果の方針を検討した。また、現場見学会を実施し、実物の構造を調査した。

(2) 「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」続編 編集委員会

本委員会は、2002年に発刊した「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」の続編の発刊を目的として、令和5年度より活動を開始した。令和7年度は、2000年以降の代表的なPC建築物や技術の変遷について原稿を作成し、発刊準備を行った。

【受託研究委員会】

(1) 既設ポストテンション橋のPC鋼材調査および補修・補強に関する検討委員会

本委員会は、本工学会が平成28年に制定した「既設ポストテンション橋のPC鋼材調査および補修・補強指針(案)」の後、実橋での環境・PCグラウト充填状況等の調査が進み、PC鋼材腐食促進試験等も実施され、各社からPCグラウト再注入工法が提案されていることから、統一的な指針の制定を目的として、(株)高速道路総合技術研究所の委託を受けて、令和6年3月の理事会で設立が承認された。令和7年度は、委員会を2回、幹事会を2回、非破壊調査、PCグラウト再注入および指針作成の各WGを8回開催し、指針案の内容検討、条文案の審議、参考資料の整理を行った。また、委員会に合わせて、非破壊調査とPCグラウト再注入の実験を行い、各方法の有効性を検討した。

5. 講習会等事業

(1) 第52回PC技術講習会

第52回PC技術講習会を令和7年6月2日（月）から6月23日（月）の期間、オンライン（オンデマンド動画配信）で開催した。受講者は2,907名で、1,062名からWebアンケートの回答を得た。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

令和7年10月23日（木）・24日（金）の2日間にわたり、福井県福井市のフェニックス・プラザにおいて、「第34回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を開催した。福井県立大学地域経済研究所准教授の高野 翔氏, Technische Universitat DresdenのDr. Steffen Marx氏による特別講演と、194題の論文、報告の発表が行われ、優秀講演賞20名を表彰した。また、42団体による技術展示の実施、ワークショップでは「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」続編についての講演と「我が国のPC鋼材の現況について」のパネルディスカッションが行われた。参加者は865名で、法人正会員、賛助会員のほか、関係諸団体を合わせて52団体から後援があった。

6. 資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和7年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を、令和7年9月1日（月）から9月29日（月）の期間、オンライン（オンデマンド動画配信）で開催した。受講者は、再登録研修受講者と合わせて合計114名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和7年度のプレストレストコンクリート技士試験を、令和7年10月19日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は307名で、試験の合格者は85名であり、会誌第68巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和7年度標記試験合格者の登録者は85名で、登録更新者は1,356名（更新対象者は1,889名）であった。また、再登録者が47名あり、令和7年度のプレストレストコンクリート技士登録者は、合計1,488名となった。その結果、令和7年度末の有資格者（登録者）は4,263名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

令和7年度のコンクリート構造診断士試験に先立ち、任意受講のコンクリート構造診断技術講習（eラーニング）を、令和7年3月3日（月）から7月11日（金）の期間、実施した。受講申込者は、89名で、受講修了者は81名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和7年度のコンクリート構造診断士試験を、令和7年7月13日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は137名で、試験の合格者は34名であり、会誌第67巻6号およびホームページ

に掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

令和7年度標記試験合格者の登録者は34名で、登録更新者は334名（更新対象者は368名）であった。また、再登録者が12名あり、令和7年度のコンクリート構造診断士登録者は、合計380名となった。その結果、令和7年度末の有資格者（登録者）は1,416名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和8年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会